



古今  
奇談

伽百物語

六

東京  
遠 13  
1802  
6上



18  
1802  
卷

今辰

安吉



川加百地傳書く方目錄

本偶人<sup>かたがひ</sup>の中<sup>なか</sup>候<sup>こう</sup>并<sup>な</sup>橋<sup>はし</sup>石<sup>いし</sup>塚<sup>づか</sup>の<sup>の</sup>

柳井<sup>やなぎい</sup>乃<sup>の</sup>翁<sup>おきな</sup>并<sup>な</sup>木<sup>き</sup>弓<sup>ゆみ</sup>と<sup>と</sup>村<sup>むら</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>の<sup>の</sup>

猪尾<sup>いの</sup>の<sup>の</sup>怪<sup>あや</sup>女<sup>ま</sup>并<sup>な</sup>右<sup>みぎ</sup>町<sup>まち</sup>の<sup>の</sup>娘<sup>むすめ</sup>と<sup>と</sup>石<sup>いし</sup>女<sup>め</sup>の<sup>の</sup>形<sup>かたち</sup>に<sup>に</sup>似<sup>に</sup>て

そ<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>り

後<sup>のち</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>れ<sup>れ</sup>糸<sup>いと</sup>并<sup>な</sup>軍<sup>ぐん</sup>台<sup>だい</sup>の<sup>の</sup>縁<sup>えん</sup>あり<sup>あり</sup>

黄<sup>わう</sup>令<sup>れい</sup>の<sup>の</sup>箱<sup>はこ</sup>并<sup>な</sup>百<sup>ひゃく</sup>の<sup>の</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>果<sup>は</sup>く<sup>く</sup>室<sup>むろ</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>



Handwritten text on the left margin.























く義深と云う一掛の我をくめりて此の世にあり入り  
 了に頼の徒母なりなめりてりしは信を交人の心を思  
 ありてして信を頼の徳を好むといましは徳と人と  
 信は乃今者も現一の信のあり我と信あり信に  
 ありてありとゆくとゆりて一かまを記我とありの言  
 知徳の信をたよと信をたよとゆりて一かまを記我とありの言  
 うとと信の信をたよと信をたよとゆりて一かまを記我とありの言  
 向ありて信をたよと信をたよとゆりて一かまを記我とありの言  
 く此程ありありとゆりて一かまを記我とありの言  
 ありてありとゆりて一かまを記我とありの言  
 勝尾乃候女  
 兼乃香掃乃候女乃兼乃香掃乃候女乃兼乃香掃乃候女  
 兼乃香掃乃候女乃兼乃香掃乃候女乃兼乃香掃乃候女

ちと尺一六

二一六

大石氏は子孫の隆盛を期して張修乃孫を仰ぐ事  
と修乃孫を解業乃地ありて修乃孫一村を指あり乃孫業  
と云ふ事ありしを又仰りたる事ありしにありし事あり  
りり田ありありて修業と云ふ事ありし家ありし事あり  
りりて修業と云ふ事ありし事ありし家ありし事あり  
て業人長官養属と云ふ事ありし事ありし事あり  
て修業と云ふ事ありし事ありし事ありし事あり  
し事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり  
川の宮子善家の娘ありて一宮の善民乃孫の嫁  
一人の子ありて夫ハ修乃孫の城下に末をのこりて事あり  
修乃孫人妻とありし事ありし事ありし事ありし事あり  
修乃孫母子とありし事ありし事ありし事ありし事あり  
修乃孫とありし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり

修乃孫は孫の隆盛の期して張修乃孫を仰ぐ事  
と修乃孫を解業乃地ありて修乃孫一村を指あり乃孫業  
と云ふ事ありしを又仰りたる事ありしにありし事あり  
りり田ありありて修業と云ふ事ありし家ありし事あり  
りりて修業と云ふ事ありし事ありし家ありし事あり  
て業人長官養属と云ふ事ありし事ありし事あり  
て修業と云ふ事ありし事ありし事ありし事あり  
し事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり  
川の宮子善家の娘ありて一宮の善民乃孫の嫁  
一人の子ありて夫ハ修乃孫の城下に末をのこりて事あり  
修乃孫人妻とありし事ありし事ありし事ありし事あり  
修乃孫母子とありし事ありし事ありし事ありし事あり  
修乃孫とありし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり





了かきと年事にしてけなみとありてはけけひとありと  
 ありしのでたまふしあうみはなほあてけむとあふるまあり  
 宴合とありのりまはま本くちの船よりまかすお  
 う娘こくこれと見とあふ神を久ゆとあふる神  
 人神よりああり宴合とあふるあふるあふるあふるあふる  
 あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる  
 うるも煙火のひまの子う神とあふるあふるあふるあふるあふる  
 てあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる  
 う年の始とあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる  
 神よりあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる  
 あふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる

くらとあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる  
 まいあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふるあふる











かくしきしにれりてまゝに掛はし物乃り此の如く一始り  
 けりし物とていふはし物も身ありてはしりて  
 近う移息をももて居たりしは安き遠き  
 多け一丈も有りて何れとていふは安き遠き  
 肩衣袴のまゝに居たりしは安き遠き  
 人くれはあしきも一はあしきもいふは安き遠き  
 さらり何れもいふは安き遠き  
 取のれとていふは安き遠き  
 ゆるし凡乃白濁のまゝに居たりしは安き遠き  
 りの居りしは安き遠き  
 至りて大骨の居りしは安き遠き  
 て物と書ありて始りしは安き遠き





考之りら 諸國因果物語 今年ハ何れも...  
了念よりて... 幸めし... (と)

諸國因果物語

全部六卷

致々進討書

寶永三丙戌年正月吉日

江戸

和泉掾

京

寺町通松原上町

菱屋治兵衛

開版

大坂府

大藏長

町

南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經

町

道久七の公  
如法川正  
後下門

あまのり  
あまのり  
あまのり  
あまのり

